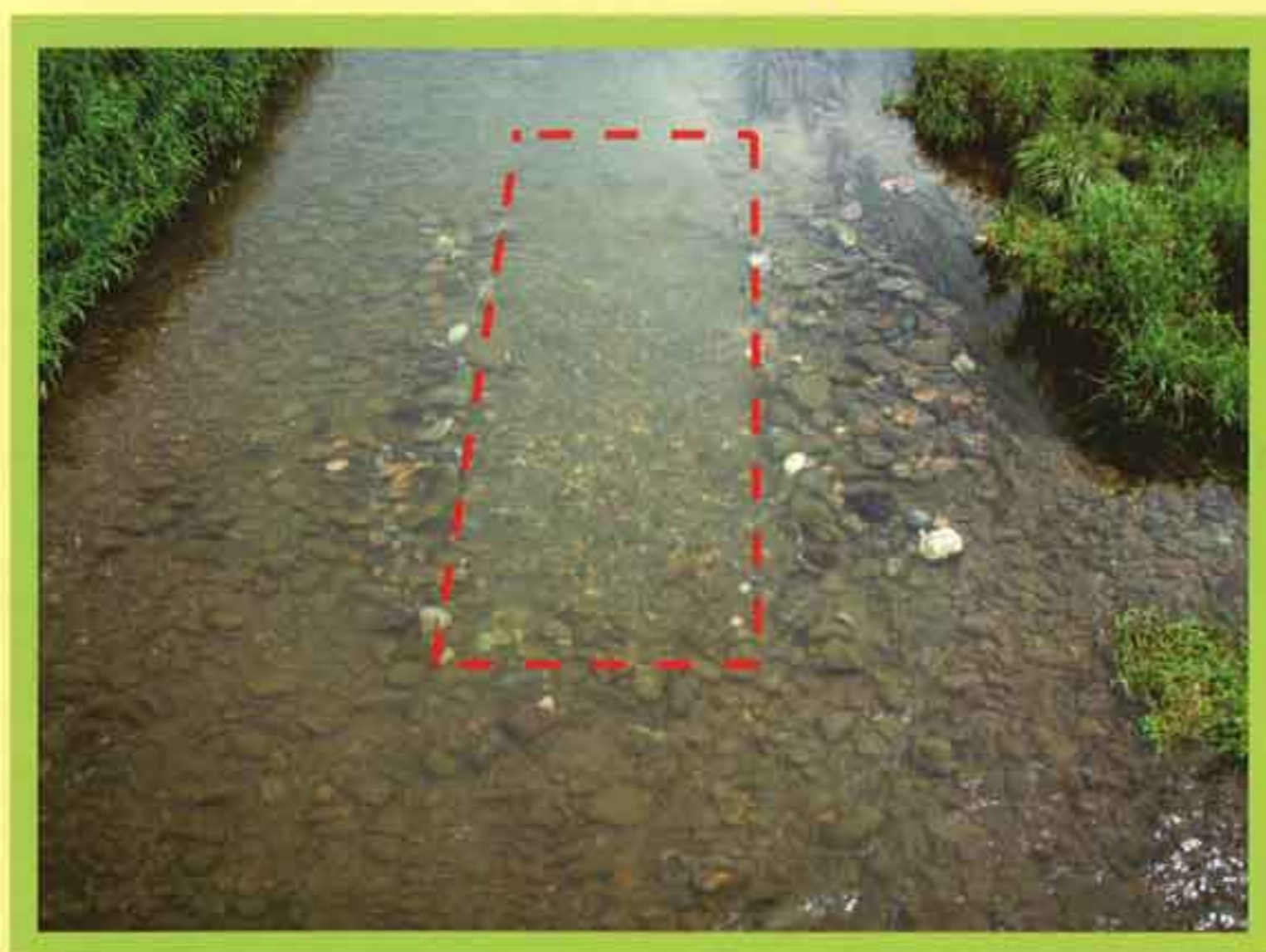


婚姻色が出たオスのオイカワ



オイカワの人工産卵床のつくり方



オイカワの人工産卵床



オイカワの産卵（オスの下にメスがいる）

くわしくは、映像ソフト「オイカワの人工産卵床のつくり方」をご覧ください

(問い合わせ先：中央水産研究所 内水面研究部 TEL 0288-55-0055)

水 産 庁

独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所

7



オイカワについて

オイカワはほぼ全国の川の中流部から下流部にかけて生息する淡水魚です。

産卵期のオスにみられるあざやかな色合いや、釣りやすいことから人気の高い魚です。地域によっては漁業上の重要な魚とされ、唐揚げや素焼きなどにして食べられています。



オイカワ釣り



オス（上）とメス（下）



唐揚げ

2



人工産卵床を造成する理由

かつてはたくさんのオイカワがみられました。しかし、最近では河川改修やカワウの影響などで生息数が減っています。人工産卵床の造成は、オイカワが漁業権魚種になっている漁業協同組合が行う義務増殖の履行方法のひとつです。オイカワの放流用の種苗はなかなか手に入らないので、人工産卵床の造成が期待されています。

3



オイカワの産卵

1 産卵期と産卵場所

一般にオイカワの産卵期は5～8月です。水温がおよそ20～25℃の時に産卵します。

おもな産卵場所は、水深が5～30cm、流速が毎秒30cm以下の、平瀬や岸寄りの流れの緩やかな場所です。

数cmからこぶしくらいの大きさの石の間に、1cmくらいの礫や細かい砂が混在し、藻類の付いていない、きれいな川底が好まれます。



オイカワが産卵する瀬



産卵場所（赤い丸の場所が実際に産卵した場所）

産卵場所の環境条件

水深	5～30cm
流速	毎秒30cm以下
河床材料	藻類が付いておらず、泥に覆われていない 直径1～2cmのきれいな礫と細かい砂



産卵場所の川底の様子

このようなきれいな川底で産卵する。



産卵に向いていない川底

藻類や泥に覆われている。

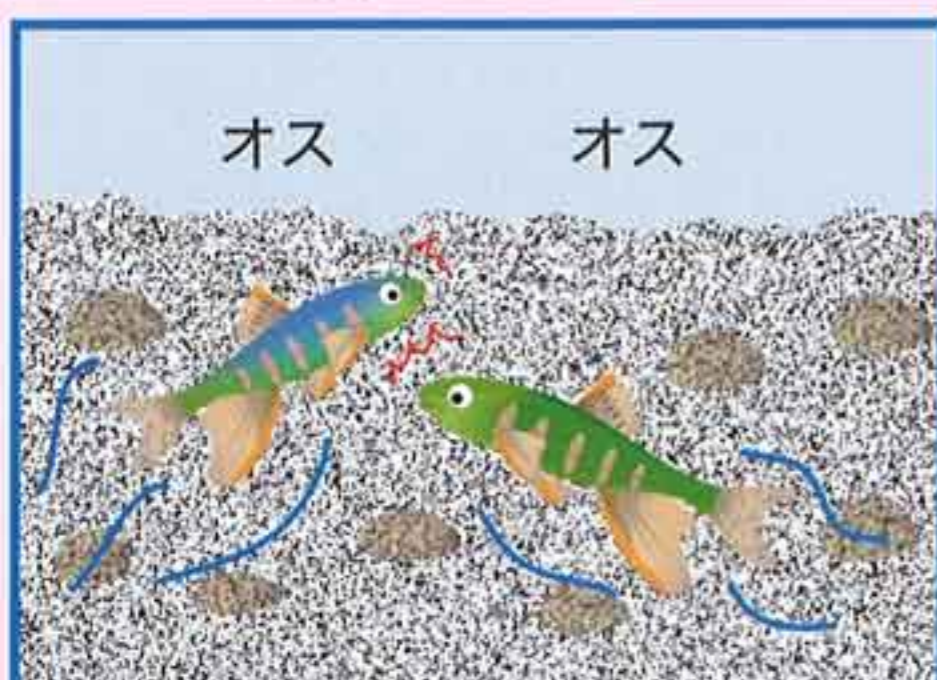
2 産卵行動

オスは産卵場所をめぐって他のオスと激しく争います。そして、争いに勝ったオスがメス1尾とペアになって産卵します。

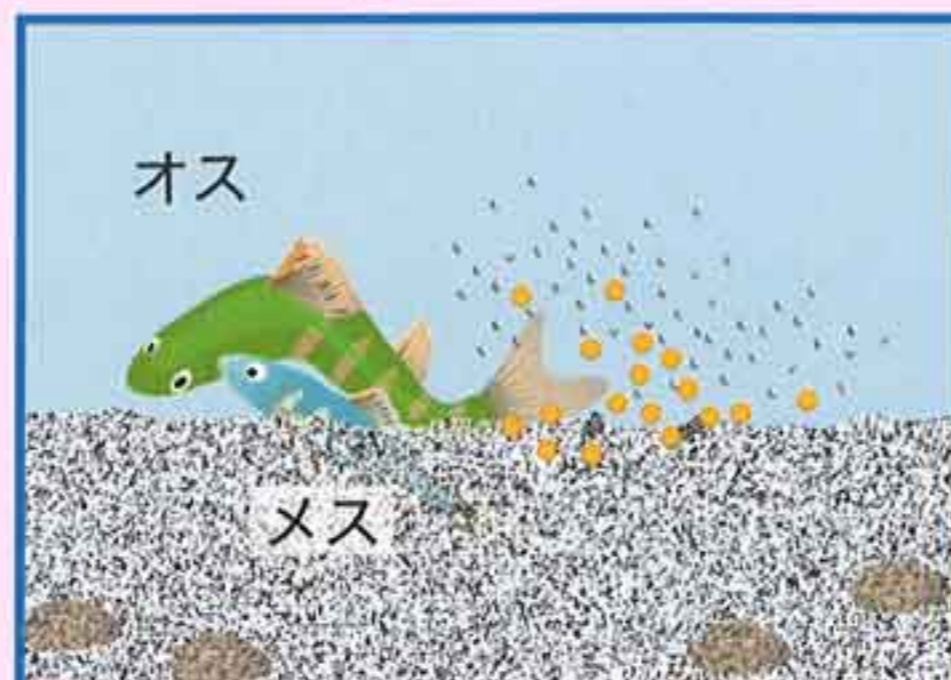
卵は産卵の瞬間に舞い上がった砂礫の中に沈み込みます。この時、他のオスがすばやくやって来て産卵に参加したり、他の種類の魚や若いオイカワが卵を食べたりします。



産卵の流れ →



① オス同士の争い



② オスとメスのペアで産卵



③ 卵を食べに他の魚が集まる

4



人工産卵床のつくり方

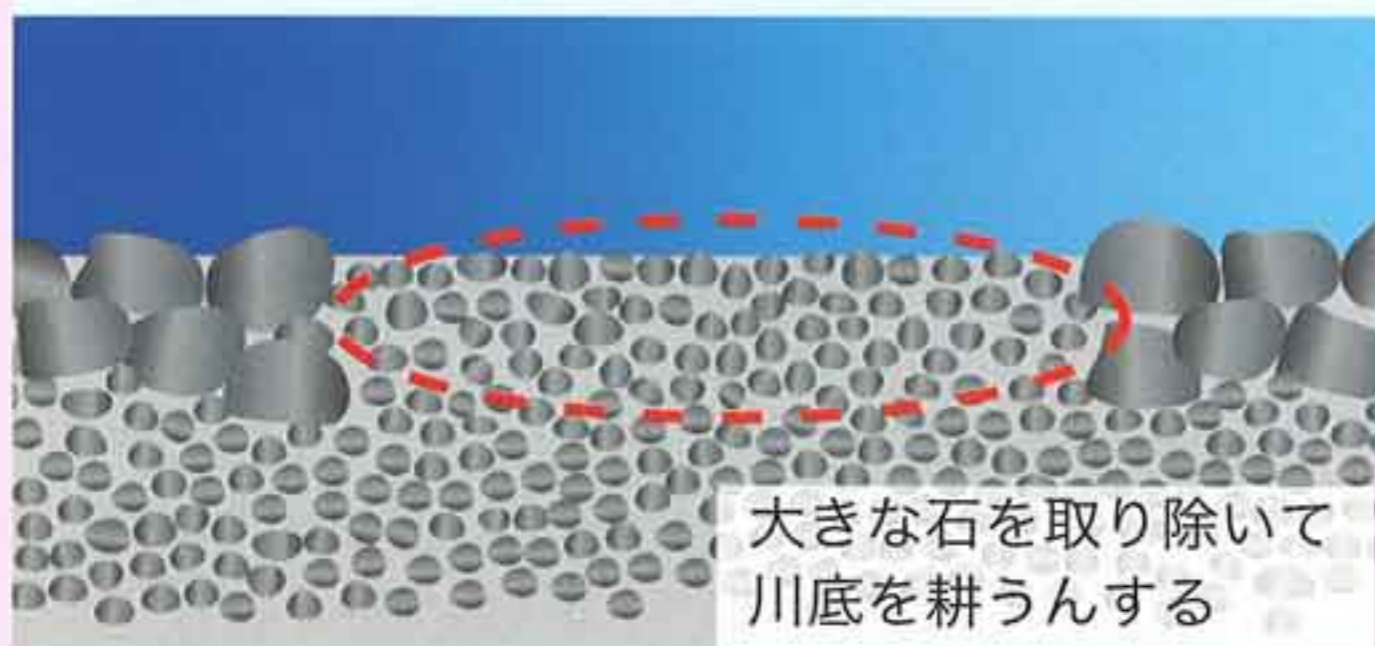
1 造成の手順

産卵が始まる頃に、オイカワの親魚がみられる、水深が 30cm 前後で、流速が毎秒 30cm 程度の流れの緩やかな平瀬に造成します。オイカワが好む、藻類の付いていない、きれいな川底を作ります。特に川底が沈み石状態（石や礫がめりこんで川底が固い状態）のところを以下の手順で改善すると効果的です。

- ①川底の大きな石（こぶしより大きな石）を取り除く。ボールやつるはしを使います。
- ②川底を耕うんして、礫同士の間にはすき間をつくる。じょれんやくわを使います。

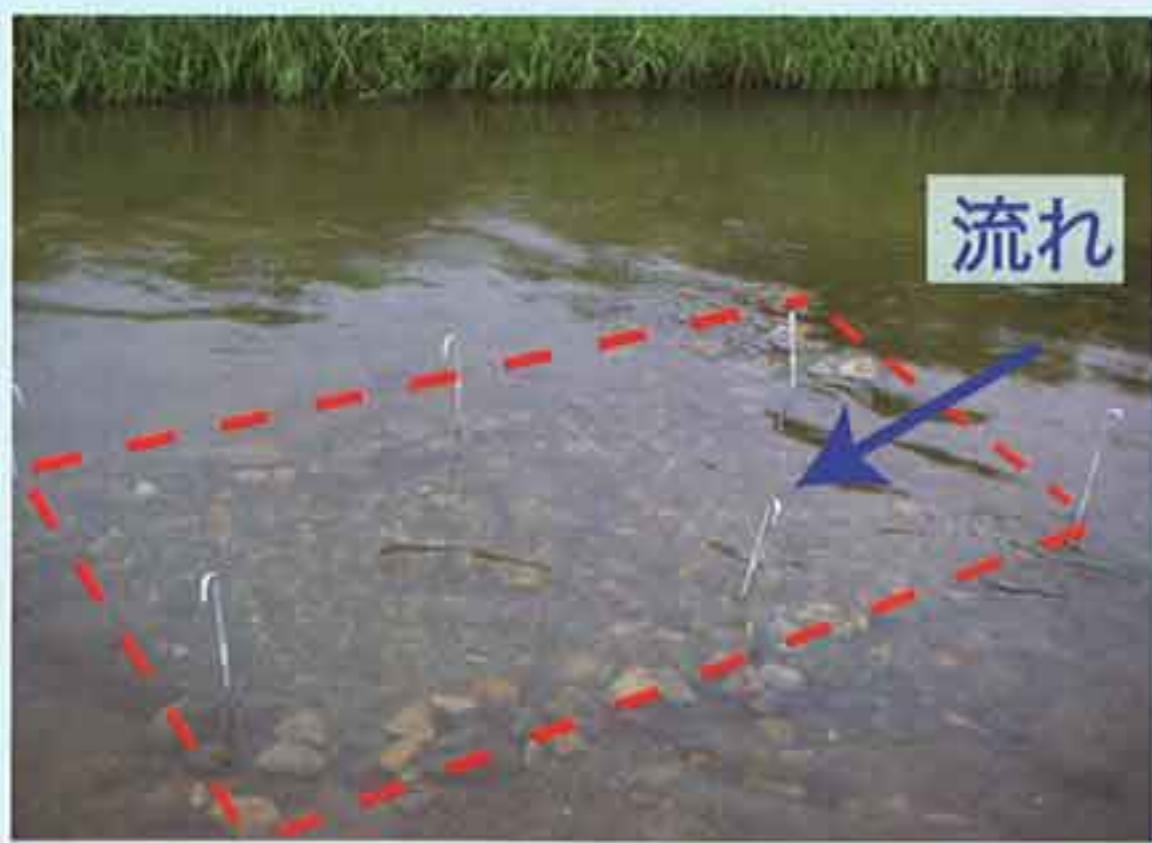


流れ



ポイント

- 造成時期：**産卵が始まる頃（婚姻色の出た雄がみられる頃。増水期は避ける）
- 造成場所：**オイカワの親魚がみられる、水深が 30cm 前後の流れの緩やかな平瀬
- 川底：**砂が混ざった直径 1~2cm の礫の川底にする。砂礫の厚さのめやすは 5~10cm くらい



造成例 1
長さ 2m、幅 1m の人工産卵床



造成例 2
2m 四方の人工産卵床



造成に必要な道具
(左から手袋、じょれん、ボール、くわ、つるはし)

2 その他の造成方法

前のページの1のように、平瀬に広めの人工産卵床を造成する方法の他に、次の2つの方法があります。それらを紹介します。

(1) 1m四方くらいの小規模の人工産卵床の造成



石を置いて流れを弱くする

大きな礫を取り除いて川底を耕うんする、あるいは1~2cmの礫を敷く

完成

(2) 大きさが1~2cmの礫を敷いた容器の設置



礫を敷いた稲の育苗容器



川へ設置



容器を使った人工産卵床でのオイカワの産卵



上記の方法については、福岡県水産海洋技術センター内水面研究所が作成したマニュアル(右の写真)があります。詳しくはそちらをご覧ください。



オイカワの仔魚

5



造成時の留意点

オイカワの人工産卵床は、川底を藻類の付いていないきれいな状態にする点でウグイの産卵床の造成と似ています。しかし、次の点が違います。

- ①造成時期：水温が上昇する初夏から夏（ウグイは桜が咲く春）
- ②造成場所：緩やかな流れの平瀬（ウグイは早瀬）
- ③河床材料：砂が混ざった1～2cmの礫（ウグイは2～5cmの礫）

日中の水温が20℃を越えたら造成して下さい。それより低いとあまり産卵しません。20℃以上あれば、9月になっても産卵します。

オイカワは陽の当たる場所で好んで産卵します。陽当たりの良い場所に造成して下さい。

6

造成後の管理

人工産卵床は雨による増水などで流失することがあります。流失した場合は造り直して下さい。

7

おわりに

川の規模や造成する場所の状態などによって、人工産卵床の大きさや形を工夫して下さい。どのような大きさや形の人工産卵床が良いか、都道府県の水産試験場などにご相談下さい。

川に人工産卵床を造成したり設置するには、河川管理者から許可を受けたり届けを出す必要がある場合があります。河川管理者は国土交通省や都道府県、市町村です。これらの機関に事前に相談して下さい。



岸際に群れるオイカワの稚魚

オイカワの人工産卵床のつくり方

平成22年3月発行

【編集】 独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所 内水面研究部
中村智幸、柳生将之

【発行】 水産庁
独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所

【協力】 長野県水産試験場
福岡県水産海洋技術センター 内水面研究所